



馬耳東風

3月11日の東日本大震災・津波で壊滅した街の姿を映像で見ていると被災者でなくても絶望感に襲われる。M9.0という巨大地震が何の前兆もなく突然襲ったことに非常に衝撃を受けた。日本では地震予知技術はかなり進んでいると認識していたが、この巨大地震の予知には全く無力だった。何時起こっても不思議ではないと言われる「東海地震」については予知に繋がる様々な測定が行われているが、今回の地震発生を思うとそれらは果たして予知に役立つのだろうかと心配になる。地震学者を含め多くの「解説者」が地震規模、それに続く巨大津波の発生を「想定外」と言う言葉で解説している。しかし、その言葉ばかり耳にしていると「仕方のないこと」と聞こえてくる。ある面ではそうかも知れないがあまりにも空しい。様々な分野で科学技術の発達はめざましく、その膨大な蓄積によって人類は未曾有の繁栄を築いてきた。しかし、蓄積できない人間の知力も体力も恐らく有史以来それほど発達してはいないだろう。自然を理解し、それを制御できると考えるのは人間のうぬぼれである。自然に対処する力に関してはむしろ退化しているかも知れない。

広大な地域が津波に襲われたがその中で死亡者を最低限に抑えた地区がいくつもあるという。難を逃れた人々は強い地震が発生したらまず高台に逃げろという先祖代々言い伝えられてきた経験則に基づいて行動した人々だった。一方では科学的に計算され建設された避難所に避難して命を落とした人々が大勢いた。以前、この欄で、「現代人は考えることを放棄し、判断力が低下し

た」と書いたことがあるが、一旦、基準・マニュアルが出来るとそれが全てとなり、それからはずれた事は考えなくなる習性があるようだ。決められたことに従っていれば抵抗は無いし、結果についての責任も自分自身が負うことは無いと考えるのだろう。様々な場面で「風評被害」が社会を混乱させ問題となっているが、これも判断力の低下に因るもので、周囲の人と同じ行動をとることで安心感を得ようとする行動の現れであろう。先般、放射能雨が降るということで韓国で100校以上が休校したというニュースが報道されていたが、これは日本だけの問題ではない様である。

組織の思考回路の停止、判断力の低下なども非常に気になるところである。福島第一原子力発電所の事故に対する対処の報道を見聞していると、会社側、行政側双方の言動にそれを強く感じる。本来、マニュアル外の事が発生した時、適切な対応を助言する立場と思われる原子力安全保安院も現場のことを本当に理解しているのか否か解らない。放射能危険地域内にあるとして立入りが禁止された会社が災害時緊急補助金交付申請を提出しても正式書類の体裁が整っていないからということで受付できないと断る行政に至っては唾然とする。国家的危機と言いながら、一方では政党・利己しか考えていない国会議員の思考回路も全く理解出来ない。これでは天災と「三流政治」の人災が重なり社会への影響が一層拡大しそうに思えてならない。基準、前例が無いと判断できない、行動も起こせないと言う体質が、個人にも組織にも浸透している今、復興を妨げる最も大きな壁は硬直化した行政の体質にあるのかも知れない。

(青)